

令和 2年 6月 8日

伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局

## 令和2年度 伊豆半島ジオパーク学術研究助成 審査総評

伊豆半島ジオパーク学術研究助成に多くの応募を頂戴しました。取り分け、伊豆半島でのフィールドワーク実施の見込みは不確か、さらに研究機関にあつては研究を実施する状況構築も困難な中で応募頂きましたこと、お礼申し上げます。

伊豆半島は平成28年にユネスコによって世界ジオパークに認定されました。認定にあつては、伊豆半島が有する「大地の遺産」も審査され、その世界的価値が認められました。ユネスコ世界ジオパークは4年ごとに再認定審査があります。こうした世界的価値を持つ「大地の遺産」が存在するならば、世界的な研究が恒常的に行われている、という観点で英文による査読論文の刊行状況もユネスコに審査されます。そこでジオパーク推進協議会では、伊豆半島をフィールドとする、裾野が広がる様々な分野の先端研究を助成して、査読論文の刊行を励行しております。

さて応募下さった申請は、当協議会では査読論文を執筆し競争的研究資金を得た研究者によって科学研究費の一次審査の方法を援用して、客観的な評価を実施しております。ここにおいては申請者の身分や職位は一切考慮しておりません、すべての申請を同一の基準で審査しております。したがって研究分野による有利、不利は一切ありませんので、引き続き人文・社会科学からの積極的なご応募を是非お願いします。なお審査で採択に至らなかった申請にはいくつか共通事項がありますので、以下、ご応募の参考になさってください。

- ・全般に、研究目的や既存研究を踏まえた位置づけなど、研究の概要は十分にできて、説得力を持つ申請が多くあります。また過去の研究実績を踏まえると、研究遂行能力も十分と考えられます。
- ・その一方で、具体的な研究方法、研究から明らかになること、研究の到達点、の記述が曖昧だったり、記述そのものがなかったりする申請が少なくありません。1年未満の限定された期間の研究においては到達点への道筋を具体例も挙げつつ示して下さいと、結論に至り、ひいては論文が執筆されうると判断できません。
- ・予算計画について、募集要領で明記した「助成対象経費」を踏まえていないもの、単純に校費の不足分を補うための積算が散見されます。助成対象となる経費について、必要性にもとづいて丁寧に積算して下さい。